

タイトル：2025年度 教育セミナー（第21回）

日時：2025年9月18日（木）～21日（日）

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3階 大会議室（303）

「イスラーム世界における魔術」

佐藤 優亜（早稲田大学大学院）

この度の中東☆イスラーム教育セミナーでは、様々な専門分野をもつ同世代の大学院生や先生方のお話を伺い、直接交流することができ、非常に刺激的な時間となりました。このような貴重な機会を得ることができたのは、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所ならびに講師、運営スタッフの皆様のおかげです。この場をお借りして、深く感謝申し上げます。

多くの方々が集まることで、普段なかなか触れる機会のない地域や時代、研究分野のお話を伺うことができ、非常に学びの多いセミナーとなりました。自身の専門とは異なる視点からの議論に触れる中で、新たな考え方や視野の広がりを得ることができました。

セミナー初日には発表の機会もいただきました。内容は、修士論文に向けて、卒業論文からこれまでをまとめたものです。発表後には、多角的な視点からご質問やコメントをいただき、不足している点を明確に認識しました。特に、使用する用語の整理や、扱う時代・人物・作品を明確にすることの重要性についてご指摘をいただきました。これらはまさに自分が発表の段階で十分に詰め切れていなかった部分であり、今後の研究を進めるうえでより深く考える必要があると痛感しました。

また、発表時以外にも受講生や先生方とお話する機会にも恵まれました。特にフィールドワークを行っている方々から伺った、現地で見聞きした経験談は非常に印象的でした。中でも現代における魔術的实践や思考についてのお話は、私自身の関心とも重なり、興味深く感じました。魔術を含む occult science の研究者は多くはありませんが、それ自体は様々なところに存在し、広い領域に関わるものであることを改めて感じました。さらに先生方からは資料も紹介していただきました。これらは自分一人では出会うことのできなかつたものであり、交流を通じて得られる学びの大切さを実感しました。こうした経験は、今後の研究の方向性を形づくるうえで重要な機会だったと感じます。

参加前は、修士論文で何を行うかが明確に定まっていない状態で、参加することに不安を感じていました。しかし、他の受講生や講師の先生方の発表を拝聴し、お話を伺うなかで、各分野においてどのような研究が、どのような方法で進められているのかを学ぶことができました。その過程で自分の研究を改めて見つめ直し、今後の方向性を定める手がかりを得ることができました。本セミナーで得た学びを大切に、これからの研究につなげていきたいと思えます。